

地区・集落調査における先行調査の結果（概要）について

1. 調査の概要

(1) 目的

「集落対策の方向性」の検討にあたっては、中山間地域の実情を把握したうえで持続可能な地域運営の仕組みや最適化された行政サービスのあり方等の検討が必要である。

そのため、検討に資する詳細情報を得るため、協力自治体のすべての住民自治組織等及び町を対象とした調査を実施する。

(2) 調査対象

協力自治体として、安芸太田町及び神石高原町を選定し、自治体及び同町内のすべての住民自治組織等が設立されている地区・集落を調査対象とする。

【安芸太田町】61地区・集落 【神石高原町】30地区 合計91地区・集落

(3) 調査内容

① 地区・集落調査（参考：調査項目）

住民自治組織の代表者および住民等を対象に、地区・集落人口・世帯数、住民の生活行動、住民自治組織等の活動状況、地域課題、将来展望等を把握する。（関連資料収集、ヒアリング調査の実施）

② 自治体調査

地区・集落の持続可能性を高めるために実施する支援内容、財政状況等を把握する。（関連資料収集、ヒアリング調査等の実施）

地区・集落調査のヒアリング項目

1. 地区(地域)の概況

- ・地区内の班の構成と活動内容（情報伝達、見守り、清掃活動、祭り・伝統行事 ほか）

2. 住民の生活実態

- ・主な交通手段
- ・地域の見守り活動、他地域に住む家族・親族のサポート状況
- ・地域住民の主な通勤・通学先
- ・生活に必要な機能の所在地と今後の予測
（買い物、移動販売・食材配達サービスの有無、医療機関(通院)、給油、ATM)

3. 住民自治組織の活動

(1) 自治振興区の活動単位と活動内容

- ・管理施設(集会所、防犯灯等)
- ・活動状況
（伝統行事、見守り、防災、交流、清掃、インフラ維持(道、側溝等)、衛生(ゴミ出し等)等
- ・休止した活動・負担となっている活動
- ・担い手が減っても継続的に続的に取り組みたい活動 など

(2) 地域活動団体の現状

- ・自治振興区の組織構造、
- ・地域内活動団体の有無と活動状況、役員の重複状況 など

(3) 農林業の概況

- ・農林業の担い手の状況、耕作放棄地の利用状況
- ・農業用施設(水路・ため池)の維持・管理の状況 など

(4) 地域の担い手の現状

- ・30～50 歳代の活動への自治振興区、各種地域活動団体への参加状況
- ・出身者の地域活動への参加状況
- ・地域の各種役員の担手の確保状況 など

4. 地域の将来展望

- ・現在の 40 歳代以下が迎える 30 年後の地域のイメージ
- ・30 年後の想定人口を前提とした住民自治活動の変化（できる活動、できなくなる活動）
- ・将来的な自治振興区の対象範囲の拡大・縮小の可能性（持続的活動に向けて）
- ・移住者(外国人含む)等の地域への受入れに対するお考え
- ・予想される将来に対応して地域住民でできること
- ・予想される将来に対応して行政に望まれる対応 など

2. 協力自治体の概況

【安芸太田町】(R5年3月末現在)

人口：5,634人
 高齢化率：52.2%
 世帯数：3,047世帯

広島県北西部に位置し、町の中心部の標高は200m前後であるが、地域によっては500mを超え、冬季は積雪の多い地域である。

南は広島市・廿日市市、西は益田市、北・東は北広島町に接しており、広島市を中心とした都市圏に位置している。(広島市から50km、高速道路経由で60分程度)



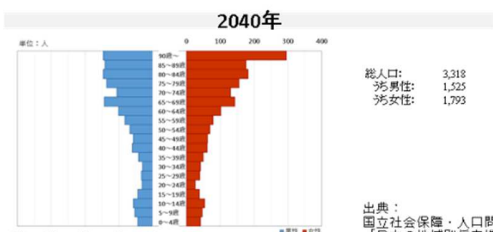
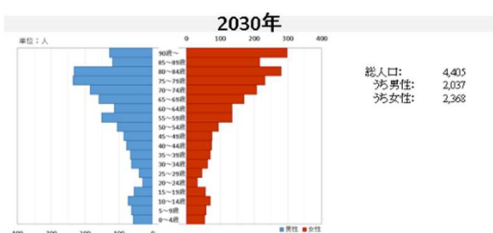
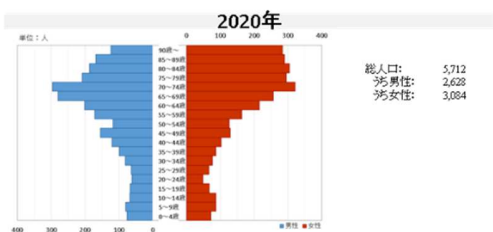
町内には、スーパー、ドラッグストア、ホームセンター、コンビニなど日常的な買い物が可能な施設があり、基礎的な生活機能は町内で確保できる。

医療施設は町立安芸太田病院があり、民間の医療施設も複数立地している。

地域公共交通は広島市、益田市等への高速バスが運行しているほか、町内5路線のバスに加え、一律700円で利用可能な定額タクシー、区域内200円で利用できるデマンドタクシー「あなたく」などが利用できる。

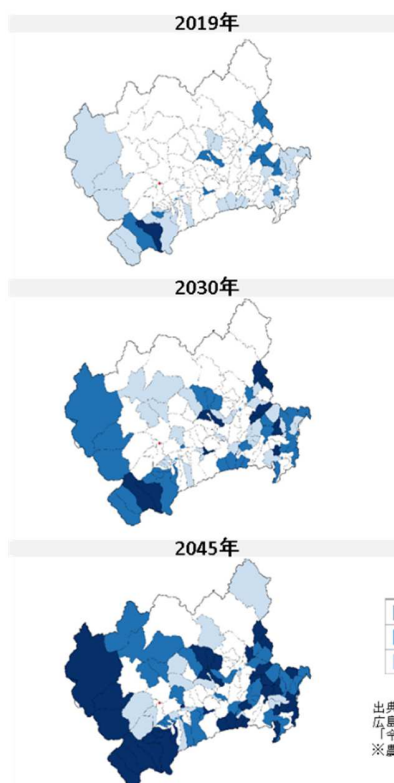
推計に基づく将来の姿(概況)

人口ピラミッド*



出典: 国立社会保険・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」

集落※別世帯数推計



【安芸太田町の住民自治組織の構成】

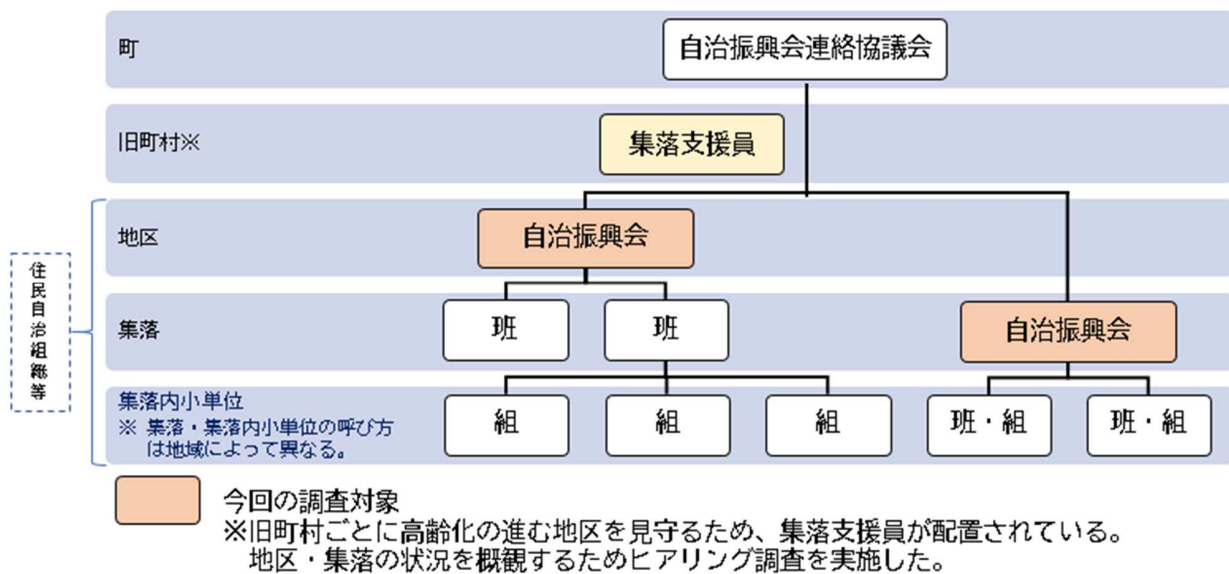
安芸太田町では、協働のまちづくりの発展のため、町内に61の住民自治組織（自治振興会組織）を設置している。

また、自治振興会連絡協議会を設置し、町及び他の自治振興会との連携を図っている。

なお、安芸太田町の住民自治組織は、かつての小学校区等で構成される地区と集落の地域単位が併存している。

各住民自治組織の下には単位自治会または集落に該当する「班」さらに近隣世帯で構成される「組」等がある。

近年、地区レベルで構成される自治振興会において、コロナ禍による活動の停滞、役員選出等の問題等があり、集落レベルに分割されたところがある。



【神石高原町】（R5年4月1日現在）

人口：8,166人
 高齢化率：49.5%
 世帯数：3781世帯

広島県東部に位置し、高原地形で標高は400～500mあり、町北部では冬季は積雪の多い地域がある。

南は福山市、北は庄原市、西は府中市、東は岡山県高梁市・井原市に接しており、福山市を中心とした都市圏に位置している。（福山市から30km、国道182号経由で50分程度）

町内には、スーパー・コンビニが各1施設あり、ドラッグストア・ホームセンター等はなく、日常的な買い物等は地区によって福山市や庄原市東城町などの施設を利用する機会が多くなっている。

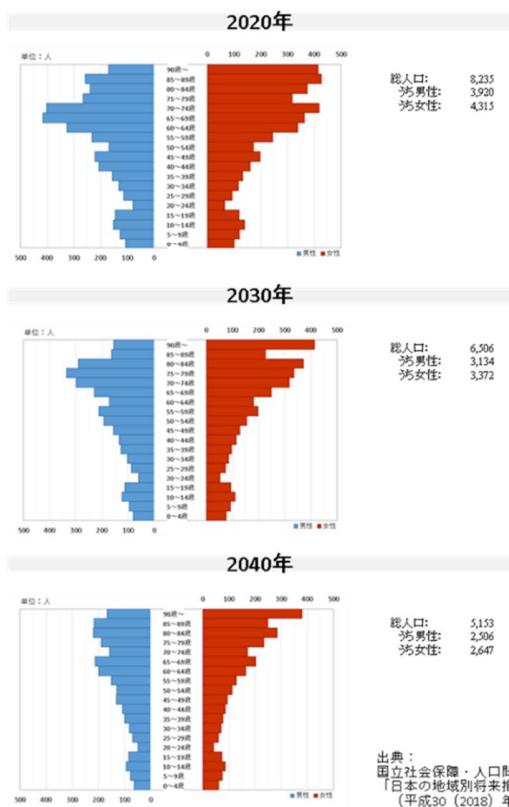
医療施設は神石高原町立病院があり、民間の医療施設も複数立地している。

地域公共交通は、福山市と庄原市東城町を結ぶ民間バス路線のほか、町営バスの2路線、高齢者等を対象としたふれあいタクシー（町内900円、町外医療施設へは3000円を上限に補助）がある。

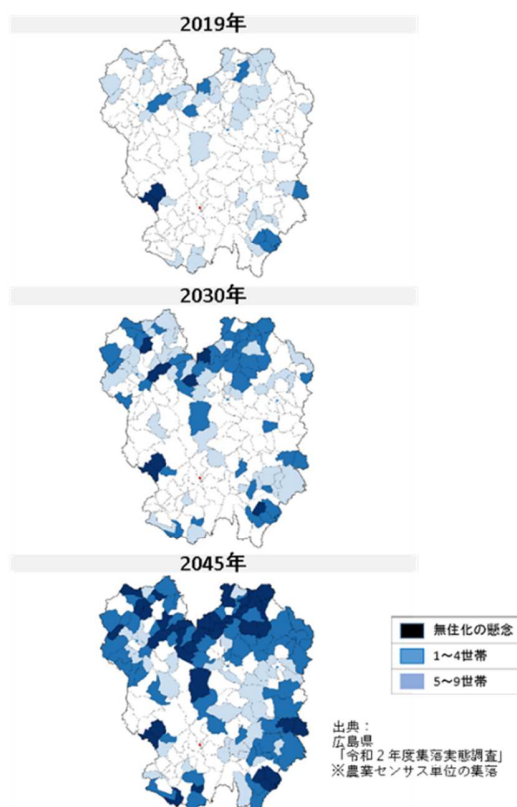


推計に基づく将来の姿（概況）

人口ピラミッド



集落*別世帯数推計

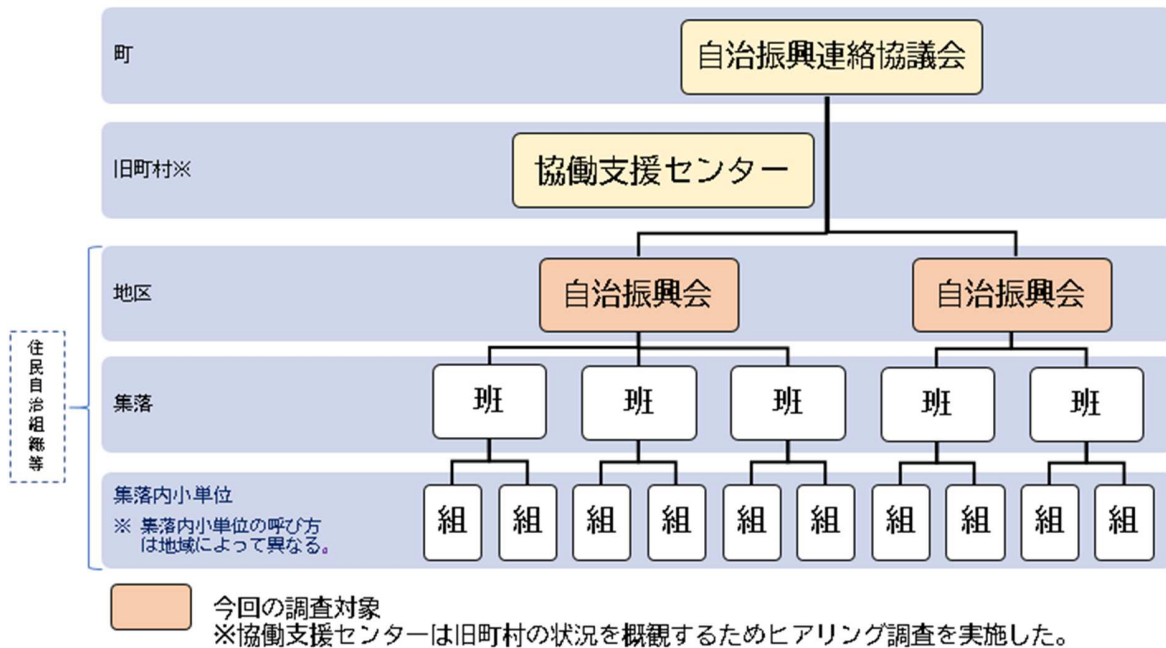


【神石高原町の住民自治組織の構成】

神石高原町では、住民との協働・補完によるまちづくりを推進するため、町内に30の住民自治組織（自治振興会）を設置している。

また、旧町村を対象とした協働支援センターを設置し、旧町村の総力を集結するための活動母体として町及び旧町村内自治振興会との連携によるまちづくりを推進している。

神石高原町の住民自治組織は、かつての小学校区等で構成されており、その下に集落単位の「班」があり、さらに近隣世帯で構成される「組」等がある。



3. 先行調査の概況

(1) 先行調査の実施状況

地区・集落調査は、地域の実態を大まかに把握し、中間整理等のスケジュールに合わせ、先行調査箇所を選定し、6月下旬から7月中旬にかけてヒアリング調査を実施した。

先行調査箇所については、2町の合併前町村別に拠点施設等に近い集落（基幹地区）、周辺部の小規模集落（周辺地区）、生活支援活動に対する取組みのある集落（注目される活動有地区）を各1地区抽出し、計21地区（安芸太田町：9地区、神石高原町：12地区）を対象に実施した。

調査実施にあたっては、町役場担当課を通じて住民自治組織に依頼し、地域住民が参加する形でヒアリング調査を実施した。

（一部住民自治組織役員のみでのヒアリングの場合もあり）

(2) 全類型に共通する地域実態

①地域活動の負担感の拡大

全類型ともに人口減、少子・高齢化により、地域活動の負担が高まり、地域の将来に対する不安を感じている。

特に、すべての活動で担い手不足が顕在化しており、担い手の確保が最重要課題となっている。

②自家用車での移動を基本とした生活

個人の生活は、自家用車による移動を基本としつつ、周辺市町を含めた機能集積のある地域を利用することで成立させており、特に神石高原町では町域を越えて生活機能利用圏域が広がる傾向が強い。（生活機能利用圏域イメージ参照）

品揃えや価格・利便性から足元の地域（旧町村）の小売店・GS等の利用が低下し、後継者不足もあり、廃業する施設が増え、身近な生活機能が消失している。

⇒ 身近な地域の機能だけでは生活が成り立たない生活環境

自家用車の運転が困難になった場合は、地域公共交通（主にタクシー：助成あり）を利用し、旧町村内や隣接する町外の生活機能を利用している。

90歳代でも地区・集落で生活するために運転している人がいる。

自家用車の運転ができなくなる = 生活が維持できる健康状態でない

⇒ 施設入所 or 転居

③高齢者の生活を支える自助・共助

高齢独居、高齢夫婦のみ世帯では、近隣に居住する親族（子ども・兄弟姉妹等）が支援することで生活が成り立っている場合も多い。

高齢者等、地域で配慮が必要な人については、民生委員、集落支援員等の行政関連の見守り、社協等の福祉関連分野での見守り、近隣住民による見守り等、住民自治組織による高齢者サロン等の実施を通じた見守りなど様々な取り組みがみられる。

④新たな担い手の確保に対する意識の差

移住者の受け入れや出身者による支援の受け入れに関する考え方や実際の受け入れ状況には地域によって温度差がある。

外部人材の受け入れを進めている地域では将来への不安感が軽減されている場合もある。【神石高原町】

⑤生活機能の自主的な提供はハードル高い

生活機能（移動・買い物・GS等）を住民自治組織で独自提供していくという取り組みに対しては、担い手問題等もあり検討・実施している地区・集落はほとんどみられない。

(3) 類型別にみられた特徴

①拠点施設等に近い集落（基幹地区）の特徴（他の地域類型との違い）

旧町村の基幹地区では、世帯・人口規模が大きいため、無住化の可能性は低いものの、住民自治組織の活動に対する関心が低く、継続的な活動に苦慮している。【神石高原町】

高齢化や人口減少のさらなる進展は、周辺部と比較して遅れて進むことから、これから地域課題が顕在化していき対応を迫られる状況となることが予想される。

②周辺部の小規模集落（周辺地区）の特徴

周辺部の小規模な住民自治組織では、構成する班等の小地域の活動が困難になり、上位組織である住民自治組織が集落である班等の役割も兼ねて地域を運営する状況となっている場合がある。【神石高原町】

地域活動を行うにも、実働できる担い手の不足が顕著であり、地区・集落の草刈り、農業施設管理、水道の管理等、これまで地区・集落で行って来た活動の多くができなくなり、行政に対応を求める声が多くなっている。

また、班など集落（小地域）ではすでに無住化した箇所も出現しており、廃屋・耕作放棄地が原野化するなどの影響が出ている。

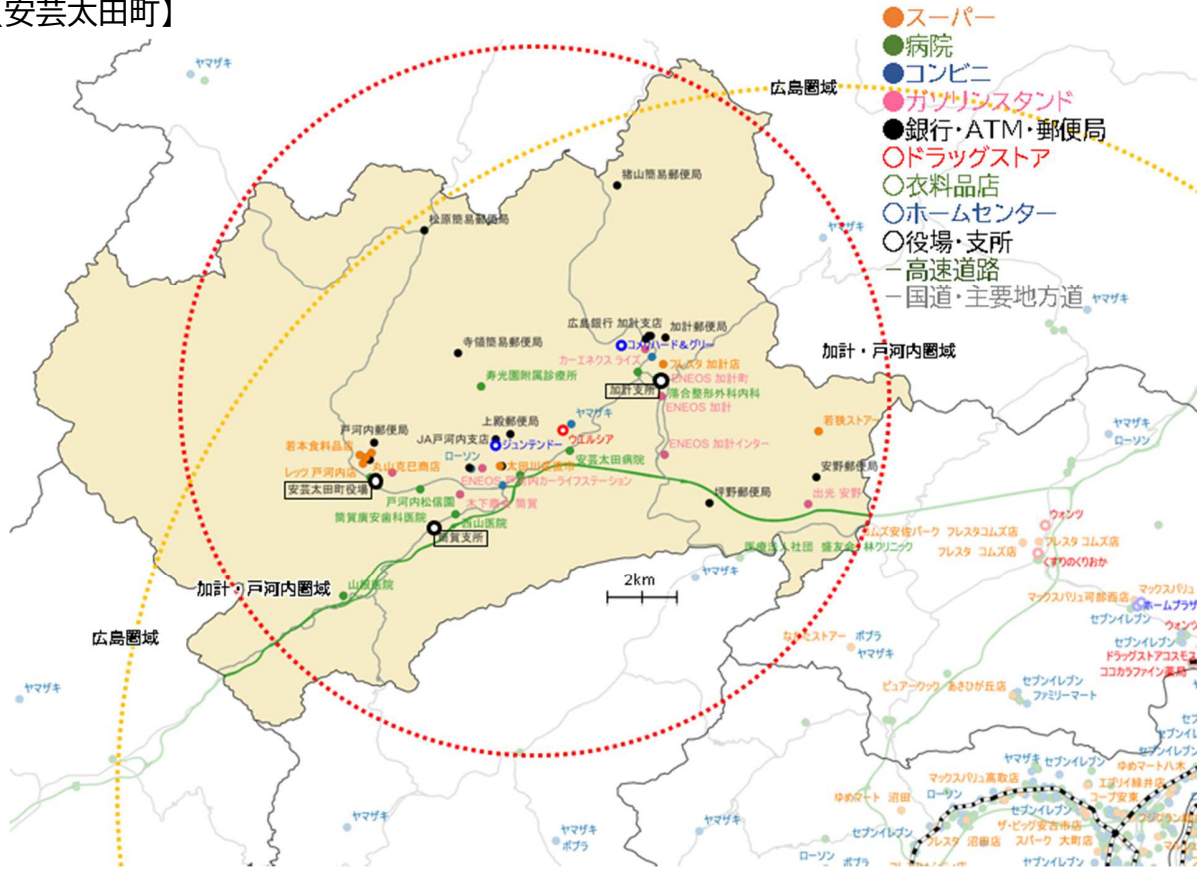
③生活支援活動に対する取組みのある集落（注目される活動有地区）の特徴

一方、小規模な住民自治組織でも、移住者やUターンが増えている地区もあり、若い年代の地区・集落への居住により、新たな活動や地区・集落の見直しの契機にもなり、次世代を担う人材の確保により、将来への不安が軽減されたという事例もみられた。【神石高原町】

移住者やUターンが増えている地区・集落は、地域資源等（自然環境・地域文化・廃校跡など）に関心を持った人材を地域リーダー等が受け入れ、支えるとともに、自由な活動を見守ることで、地区・集落への定着が進んでいるという意見もあった。

また、移住者のネットワークが新たな交流人口・関係人口・移住者・Uターンをひきつける好循環が生まれている事例もみられた。【神石高原町】

生活機能利用圏域イメージ 【安芸太田町】



【神石高原町】

